

データ分析による中京北陸間共同輸送網の導出事業

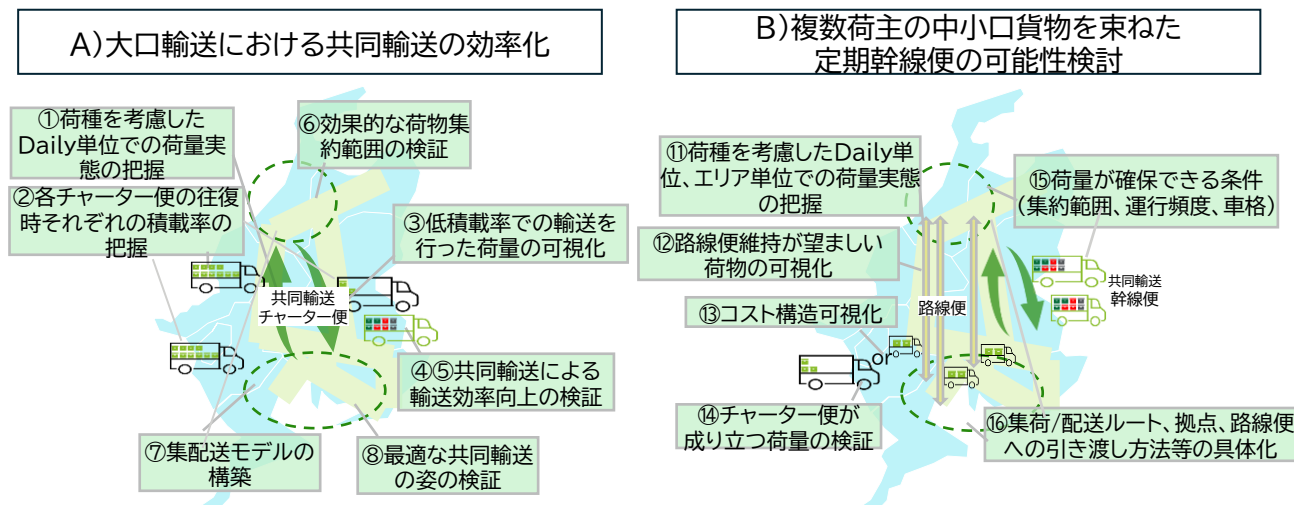
協議会名:フィジカルインターネット※実現会議 化学品WG 中京北陸間共同輸送 協議会

協議会構成員(全11団体)
石川県、東レ、三菱ケミカル、三井化学、東ソー、日産化学、豊通ケミプラス、日産物流、東洋運輸、三菱ケミカル物流、東ソー物流

【事業実施背景】
北陸地域は、沿岸部に産業拠点が分散する地理的特性に加え、輸送距離が相対的に長く、輸送効率化が図りにくい。また、繊維・化学品の原材料が中京圏から供給される一方で、北陸からの輸送は関西・関東向けが多い。これにより低積載・片道輸送が常態化し、物流コストの上昇、非効率な輸送、ドライバー不足などを招いている。物流データを可視化し共同物流網の設計・実装することで、他地域にも展開可能な共同輸送モデル構築を目指す。

事業内容

- A) 大口輸送における共同輸送の効率化
複数荷主の統合、往復便化、直行便とハブ経由の使い分け、納期緩和や集約範囲・運行頻度の最適化を検証し、共同輸送チャーター便の成立条件を整理する。
- B) 複数荷主の中小口貨物を束ねた定期幹線便の可能性検討
路線便貨物を束ねた定期幹線便について、成立荷量・頻度、発着拠点、集荷配送・荷役方法を検討する。



想定事業実施効果

- 定量目標
(大口輸送における共同輸送の効率化)
—車両稼働台数:10%削減
—往路復路での積載率:10%向上
- 定性目標
(複数荷主の中小口貨物を束ねた定期幹線便の可能性検討)
—定期幹線便運航に必要な荷量と頻度の可視化の完了
—集荷、幹線輸送、配送一連のオペレーション検討完了
—実運用への移行を図るための各論点の抽出完了